

第6章 公共交通

1. 基本的な方針

人口減少、少子高齢化社会を迎え、過度なクルマ依存の生活を見直し、公共交通や自転車などを中心に移動できるよう、「市民みんなでつくるだれもが安心して、やさしく移動できるまち・松江」の実現を目指します。

方針1 幹線となるバス路線網の維持と確保

都市の中核及び都市の中核周辺を循環する路線や、市街地の中心部から各地域へ張り巡らされている路線バスについて、持続可能な運行体制のあり方を検討するとともに、引き続き利用促進の取組を積極的に展開していきます。

また、幹線道路から離れた高台の住宅地等については、公共交通へのアクセスが悪くなっているため、自治会やNPOによる輸送も含めた、地域が主体となった新たな交通手段の導入やタクシーの活用等を検討します。

方針2 路線バスの利便性向上

市民をはじめ、国内外の観光客等の鉄道からの乗り継ぎ等、利便性を大きく高める交通ICカードについて、路線バスへの導入を目指し、調査研究を行います。

また、携帯端末や路上表示器の活用による、リアルタイムでの運行情報の閲覧を可能とする新たなバス運行情報提供システムの導入に向けた検討を行います。

方針3 鉄道等の充実

鉄道については、「山陰新幹線」「中国横断新幹線」の整備推進、JR伯備線における車両の近代化、一畑電車への支援等を通じて、広域移動の充実を図るとともに、通勤利用の促進を図れるよう、利便性、快適性の向上を促進します。

さらに、交流人口の拡大に資する水上交通等多様な移動手段の導入を検討します。

方針4 モビリティ・マネジメントの推進

ノーマイカーウィークの実施等、モビリティ・マネジメントの推進により、公共交通の利用促進を図ります。

2. 公共交通に関する施策

(1) 公共交通に関する取組

前述の方針を踏まえ、以下の施策に取り組めます。

(ア) 幹線となるバス路線網の維持と確保

- ・ JR松江駅周辺の再整備の検討（再掲）
- ・ 高台住宅地等における地域が主体となった新たな交通手段の導入の検討

(イ) 路線バスの利便性向上

- ・ ICカードの導入の検討
- ・ バス運行情報提供システム導入の検討
- ・ バス停周辺の歩道整備
- ・ バス停付近の駐輪場整備
- ・ 70歳以上の高齢者に対する市内路線バスの運賃助成

(ウ) 鉄道（JR・一畑電車）の利用促進

- ・ 交通結節点における、JR、一畑電車とバスとの接続の確保
- ・ 商業、観光施設と連携した企画乗車券の販売や、割引制度の導入

(2) 今後活用が想定される国の支援策

公共交通に関する施策として、以下の支援策の活用を検討します。

事業名	事業の概要
都市再生整備計画事業 （再掲）	誘導区域かつ都市再生整備計画区域内で行われる、自由通路、ペDESTリアンデッキ、駐車場、バリアフリー施設、複合交通センター等の整備を交付金で支援（交付率：2/5）
都市・地域交通戦略 推進事業	都市・地域総合交通戦略に基づき誘導区域内で行われる、自由通路、交通結節点、駐車場、バリアフリー施設、鉄道、バス等に関する施設（車両を除く）等の整備を交付金の交付率を嵩上げして支援（交付率：1/3→1/2）

出典：国土交通省「立地適正化計画に係る予算・金融上の支援措置一覧」（平成30年度）より抜粋